

P-2 一般病棟や外来診療で CVC の危険性は十分認識されているか？ アンケート調査の結果

防衛医科大学校病院 集中治療部

梅田英一郎 尾崎孝平 田北 彰 佐藤哲雄

CVC に関するアンケート調査を大学医学部付属病院 110 施設的一般外来、救急外来、内科病棟、外科病棟、集中治療室、放射線検査室、内視鏡検査室の 7 部所の合計 770 箇所におこなった。

【質問内容】1. CVC の意味を知っているか。2. CVC の症例数と対処方法。3. CVC の準備態勢はできているか。4. CVC の対応機材は備わっているか。5. CVC の教育訓練は実施されているかであった。

【結果】回答率は 48.8% で部所別では外科病棟が 54.5%、ICU が 55.5% と高く、内視鏡室が 41.8% でやや低かった。

1. CVC の認識度とアメリカ麻酔学会の CVC の対処方法の認識度は、スタッフ全員がまったく知らないおよび知っているスタッフが 25% 以下の部所がほとんどだった。2. 過去に CVC 症例はあったかは、19.1% の部所であったという結果だった。部所別の割合は、救急外来、ICU が約 30%、外科と内科病棟が約 10%、一般外来、放射線室、内視鏡室が数% だった。3. 対処方法は、気管切開術、トラヘルパー、気管穿刺の気管に直接的にアプローチする方法が合わせて 34 件で、次に麻酔・救急医に挿管依頼したのが 6 件だった。4. 緊急気管切開セットの常備率は 59.4% で、部所別では救急外来、外科と内科病棟、ICU が 62.7 から 92.6% と高く、一般外来が 23.9%、放射線室が 25.5%、内視鏡室が 11.1% と低く、緊急気管切開の準備態勢に大きな差があった。5. 緊急気管切開をおこなうのは誰かは、救急外来では担当医と救急医、外科と内科病棟では担当医、一般外来、ICU、放射線室、内視鏡室では担当医、麻酔医、救急医であった。6. 通常の換気や気道確保

の常備品以外では気管支ファイバーが 123 部所、トラキライトが 80 部所で常備していた。COPA、コンピチューブ、ファストトラック、Needle Jet Ventilation は ICU と救急外来でもおもに常備されていた。手術室でよく使用されているラリンジアルマスクは 30 部所に常備されていた。7. ラリンジアルマスクに関しては、8.1% の部所しか常備されておらず、部所別では救急外来が 20.4%、ICU が 14.8%、放射線室が 15.4% で、その他の部所は 0 から 2.2% で、ほとんどの部所で低い常備率だった。8. 緊急症例で CVC の危険性を認識して対応しているかは、45.7% の部所で対応しているという結果だった。9. 換気や気道確保をおこなうの誰かは、ほとんどの部所で担当医が、救急外来では次に救急医が、ICU では次に麻酔医がおこなっていた。10. 実際に換気や気道確保の対処法は作ってあるかは、60.2% もの部所が作っていた。11. スタッフに対して換気や気道確保の教育訓練は実施されているかは、68.1% もの部所で実施されていた。しかしこの結果と前の対処法の結果は、今回のアンケートに関心の高い部所からの回答の集計結果であることを考慮しなければならないと思われた。

【まとめ】1. CVC を知らない部所が多かった。2. CVC 症例は ICU や救急外来だけでなく他の部所でもあった。3. CVC の危険性の認識度が低かった。4. 緊急気管切開セットは一般外来、放射線室、内視鏡室で備えている部所は少なかった。5. ラリンジアルマスクを備えている部所は少なかった。6. 換気や気道確保の教育訓練は回答した部所に限って約 60 から 70% 実施されていた。